

もっと知りたい!!

FILE 04

### 病院のこと・先生のこと。

## 石原消化器内科クリニック

内科・消化器内科・  
隣臓内科・腎臓内科



〒765-0053 香川県善通寺市生野町1852-1  
TEL 0877-63-6677  
URL <https://www.isihara-naika.jp>



石原消化器内科クリニック  
院長  
石原 慎一 先生

#### ▼ 病院のココが自慢!

スタッフに恵まれている事と、内視鏡

#### ▼ 患者さんと接する時に大切にしていることは?

患者様の症状を正確に把握する

#### ▼ 医師になろうと思ったきっかけは?

自分の知識と経験で人を助けられる事

#### ▼ もし、医師になっていなかったら?

銀行員

#### ▼ 先生が実施している健康法は?

ゴルフ・犬の散歩・登山

#### ▼ 当院に期待すること

内科スタッフの充実と紹介のしやすさ

#### どっち?

- 犬派 (circled in red)
- 猫派
- 朝食は 和食 (circled in red)
- 洋食
- 休日は インドア派
- アウトドア派 (circled in red)

#### 好きなもの(こと) Best3!

- 旅行
- ゴルフ
- 肉

#### フリースペース

コロナも終わり、年2回の国際学会発表目標に、遊びに、仕事に両立目指して頑張ります。



独立行政法人 国立病院機構  
Shikoku Medical Center for Children and Adults\* 四国子どもととなの医療センター <https://shikoku-mc.hosp.go.jp>



### 2023年度上半期を終えて

四国子どもととなの医療センター 院長 横田 一郎

2023年度も半分が過ぎ、暑さもようやく和らぎました。まだまだコロナ・インフル対策に油断はできませんが、いかがお過ごしでしょうか。当院は本部より副院長複数体制が認められ、前田、東野の2人副院長となりました。また、新たに消化器内科医師が2名赴任し、竹谷、吉田両部長

を中心に内科診療機能の強化に努めております。11/12(日)には香川大学と協力し、香川県主催の中西讃地域脳卒中・心臓病県民公開講座が当院で開催されます。今後益々地域連携医療機関の皆様との絆を深めるために、病院機能を充実できるよう鋭意努力して参ります。



#### 副院長就任挨拶

四国子どもととなの医療センター 副院長 東野 恒作

この度、副院長に就任させていただいた整形外科の東野恒作です。整形外科医として当院に赴任させていただき6年が経ちます。赴任して3年目からはコロナウイルス感染によって病院の状況は大きく変化しました。コロナ禍の中での診療は制限を強いられましたが、一方で地域での病院連携は逆に緊密になったと私自身は感じております。2023年5月8日から第5類に変更となり10月1日から地域包括ケア病棟が再開します。高齢化社会の影響が医療に与える影響は今後ますます深刻になっていくと思われませんが、地域包括ケア病棟医長の川崎元敬先生および各部署のスタッフの皆様と一緒に病棟の機能を生かして地域に根差した医療を提供できるように努力していきたいと考えております。至らぬ点が多いと思いますが今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



#### 統括診療部長就任挨拶

四国子どもととなの医療センター 統括診療部長 竹谷 善雄

この度統括診療部長に就任させていただきました竹谷善雄です。循環器内科として当院に赴任以降地域の先生方には多くの患者様をご紹介いただき大変感謝しております。今後も引き続きよろしくお願い申し上げます。当院の内科分野の状況ですが一般内科および消化器内科において患者のご紹介をお断りせざるを得ないなど地域の基幹病院としての責務を果たせない状況であり、大変申し訳ありません。現在病院の急務として診療科体制および医師体制の改善に取り組んでいるところです。これからもご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



高橋 叡  
山崎めぐみ



#### 新任医師紹介

消化器内科医 高橋 叡 / 山崎 めぐみ

2人ともまだ経験は浅いですが、少しでも地域の医師の皆さんの力になれるよう、ネットワークを軽くして頑張りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

医学雑誌  
ホームページ  
掲載の  
お知らせ

当院発行の今年度の医学雑誌は、ホームページに掲載させていただくこととなりました。右のQRコードからご覧いただけます。何卒ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。



独立行政法人 国立病院機構

## 四国子どもととなの医療センター

〒765-8507 善通寺市仙遊町 2-1-1  
TEL 0877-62-1000  
<https://shikoku-mc.hosp.go.jp>  
交通機関 ▼善通寺 I.C より車で5分  
▼JR土讃線善通寺駅下車徒歩25分



四国子どもととな

## 形成外科

## こどもからおとなまで 全ての人々に形成外科的治療を。

四国こどもとおとなの医療センター

形成外科医長 松尾伸二



日頃より、小児科、皮膚科、産婦人科、外科の先生方々には多くの患者を紹介していただき大変感謝しています。形成外科という診療科は何をやっているのかわかりにくい科であります。日本形成外科学会は、『形成外科とは、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、生活の質 "Quality of Life" の向上に貢献する、外科系の専門領域です。』と定義しています。

当院での形成外科の紹介と、普段行っている診療(具体的には体表の外科治療)について説明します。当院は三人体制 松尾伸二(医長 平成7年徳島大学卒業 形成外科指導医)、松村辰彦(平成23年徳島大学卒業 形成外科専門医)、百海ひまわり(平成31年北海道大学卒業)で診療を行っています。徳島大学形成外科医局の関連病院となっています。香川小児病院の時に一人常勤となり、善通寺病院と統合の際に三人体制となり小児形成外科、成人形成外科の2か所で外来を行っています。

前身が小児病院ということもあり小児の患者さんが多いです。特に力を入れていることは小児の先天異常、口唇口蓋裂、副耳、埋没耳などの耳介形成異常、合指症などの外科的治療です。生まれつきのあざなどはレーザー治療を行っており、乳児血管腫の内服治療では当院小児科と共診にて治療を行っています。また、顔面外傷、熱傷などの処置も行っています。

大人の形成外科が扱う疾患としては、高齢化に伴い皮膚がんが、増加しています。皮膚がんは、完全切除をおこない、皮弁、植皮術などで再建を行います。まぶたのたるみ、シミ、しわなどの抗加齢の治療も行っています。最新のレーザー機器を導入し、美容治療も行っています。長期減毛(以前は脱毛と言っていました)、皮膚のくすみ、あから顔などにも積極的にレーザー治療を行っています。

子どもから大人まで全ての人々に形成外科の治療を行うことを目標としています。何かお困りの症例がありましたら紹介していただければ幸いです。



## 外科・栄養支援対策室

## 地域医療における 最適な医療にむけて。

四国こどもとおとなの医療センター

外科医長・栄養支援対策室長 湊拓也



日頃より、様々な面でご協力いただきありがとうございます。

統合開院から早や10年が経ち、外科の面々や機器なども少しずつ変わってきております。開院当初より患者様に負担が少なくなるよう、鏡視下手術を推進してまいりました。鏡視下手術の割合も徐々に増加し、昨年度は全体の約55%となっております。以前より胆嚢摘出術や大腸癌手術においては鏡視下手術が主体でありましたが、最近では鼠径ヘルニア修復術も鏡視下手術の割合が増加しております。ここ10年で外科を取り巻く環境の変化として、機器の進歩も目覚ましい反面、ご高齢者の増加が顕著となっております。高齢化に伴い、以前では珍しかった大腿ヘルニアや閉鎖孔ヘルニア、S状結腸軸捻転などが増加傾向にあります。また、80歳台の手術も珍しくなく、90歳台の手術も経験される様になっております。鏡視下手術を行い創部痛の軽減や胸壁腹壁破壊の軽減などをすれば良い、という単純な状況ではなくなってきております。麻酔科の先生方には以前より、硬膜外麻酔や神経ブロックなどにて鎮痛に力を入れていただいておりますが、早期離床のために、リハビリテーション科および理学療法士の方々に早期のリハビリ介入をしていただいております。また、疾患そのものに加え、手術による体力低下によって嚥下機能が低下し、食べられていた物が、食べられなくなることが起こるため、嚥下評価や嚥下訓練などを訓練していただくことも多くなっております。寝たきりの患者様も多く、褥瘡対策の体位変換や、マットレスやクッションの工夫が必要になります。日々、看護師さんを中心に皮膚のケアやトラブルの早期発見などに努め、褥瘡対策チームや栄養サポートチームなどと連携し、予防や改善治療に努めて

おります。

腫瘍においては、COVID19による影響にて、進行癌の割合が増加している状況です。そのため、根治手術ができない場合が増えております。術前に消化器内科の先生方に、ステントやイレウスチューブを入れていただくことも増えております。また、抗がん剤による術後補助療法の他、転移再発症例における抗がん剤治療も増えており、口腔内の衛生状態が合併症の軽減などにつながるため、口腔外科の先生方に歯石の除去や抜歯などの治療を継続的に行っていただく状況が増えております。また、高齢者では1つの疾患だけでなく、複数の疾患を併存されることが多く、糖尿病内科や循環器内科、呼吸器内科などの共診をいただいております。

手術や抗がん剤治療以外にも高齢化に伴い、通常の経口摂取だけでは脱水となる方が増えております。そのため病状は安定しているが、自宅では脱水やそれに伴う食欲不振、低栄養を引き起こす危険性が高い方が増えております。当院では人手が足らず、院外に出て医療を行うことが困難ですので、地域の先生方に往診の依頼をすることが増えており、また今後増加していくと感じております。これまでも快く往診を引き受けていただき感謝しておりますとともに、今後とも宜しく願いいたします。

私自身は、一人の外科医としては、手術や抗がん剤、栄養療法などを中心に据えて治療を行っておりますが、様々な部門と連携し、患者様の状態の改善と機能の維持を目指し皆で頑張っております。

様々な点で不十分な部分もあると思いますが、今後ともスタッフ一丸となり取り組み続けていきますので、どうぞ今後とも宜しく願いいたします。